

令和 7 年度浦安市教育委員会 4 月定例会会議録

浦安市教育委員会

令和7年度浦安市教育委員会4月定例会

I. 日 時	令和7年4月10日（木）		
	開 会	午後3時00分	
	閉 会	午後3時37分	
II. 場 所	市役所9階 市議会議事堂第1委員会室		
III. 進 行 教 育 長	船 橋 紀美江		
IV. 出席委員	教 育 長 職 務 代 理 者	宮 道	力
	委 員	吉 野	則 子
	委 員	影 山	純 二
	委 員	佐 藤	勇 人
V. 出席説明者	教 育 総 務 部 長	秋 本	豊
	教育総務部次長（教育政策課長）	村 上	陽 子
	教育総務部副参事（教育総務課長）	鈴 木	章 仁
	教 育 政 策 課 主 幹	小 倉	隆 志
	教 育 施 設 課 長	木 戸 口	宏 志
	学 務 課 長	鳥 海	勉
	指 導 課 長	宮 崎	智 次 郎
	指導課主幹（教育センター所長）	青 山	陽 子
	指 導 課 主 幹	小 黒	拓
	保 健 体 育 安 全 課 長	峯 崎	泰 利
	千鳥学校給食センター所長	菅 谷	研 一
	生涯学習部長	近 藤	敏 彰
	生涯学習部次長	本 川	昇
	生涯学習部副参事（生涯学習課長）	斉 藤	恭 一
	（青少年センター所長）		

生涯学習部副参事(中央図書館長)	森田志織
市民スポーツ課長	小泉和久
郷土博物館長	島村嘉一
高洲公民館長	佐藤良平
中央公民館長	増田丈巳
堀江公民館長	田中賢司
富岡公民館長	森田和徳
美浜公民館長	佐藤栄一
当代島公民館長	高梨誠二
日の出公民館長	北村章代
中央図書館副館長	三輪進也

VI. 傍聴人 3名

VII. 案件

第1. 会議録の承認

1. 令和6年度浦安市教育委員会2月定例会会議録の承認について

第2. 教育長からの一般報告

第3. 審議事項

議案第1号 令和7年度 学校地域連携運営協議会委員の委嘱について

議案第2号 浦安市スポーツ推進委員の委嘱について

第4. 協議事項

第5. 報告事項

1. 教育委員会共催・後援行事一覧
2. 教育長が臨時代理した事項について
3. 令和7年度浦安市教育委員会学校訪問実施要項について

4. 令和7年度浦安市教育委員会幼稚園・認定こども園計画訪問実施要項について
5. 令和6年度教育相談実施報告について
6. 令和7年度産業医及び健康管理医の配置について
7. 令和7年度学校医、学校歯科医、学校薬剤師の配置について
8. 令和6年度第5回定例社会教育委員会議開催報告
9. 浦安アートプロジェクト「浦安藝大」つながりの器ー浦安の土でやきものはで
きるのか！？ーワークショップ開催案内
10. 令和6年度市民大会実施競技開催報告
11. 令和7年度市民大会実施開催案内
12. 令和6年度 企画展「浦安の海苔養殖」開催報告

第6. 教育委員からの一般報告

第7. その他

開 会 （午後 3 時00分）

船 橋 教 育 長 これより令和 7 年度浦安市教育委員会 4 月定例会を始める。
議事に入る。
議事の第 1．会議録の承認である。
令和 6 年度浦安市教育委員会 2 月定例会会議録について、承認いただけるか。

（「異議なし」の声あり）

船 橋 教 育 長 異議がないので、令和 6 年度浦安市教育委員会 2 月定例会会議録については承認された。なお、会議録の承認に当たり、会議録の署名を佐藤委員にお願いする。

次に、議事の第 2．教育長からの一般報告に移る。

私から報告する。

新年度がスタートして、10日が経つ。市立幼稚園・認定こども園、小中学校では 7 日に始業式が行われた。また、8 日に小学校、9 日に中学校の入学式、10日に市立幼稚園・認定こども園の入園式が行われた。今年は桜の花も子ども達の新たな門出を待っており、入学式・入園式には満開の桜が子ども達を祝ってくれた。

本年度は小学生 8,155 名、中学生 3,290 名、合わせて 11,445 名のスタートとなった。昨年度の 4 月定例会で報告した人数と比較すると 178 名の減少となった。ずいぶん前の話になるが、私が 1 年生の担任をしていた時のこと、入学したばかりのクラスの子どもが登校してすぐに私のところに来て、「ぼくね、嬉しくて走って来ちゃった」と話してくれたことがあった。4 月はどの子も、新たな気持ちで頑張ろうという意欲を持っている。今年こそ挑戦したいことがある子もいる。そうした子ども一人一人の意欲を大切にして、一つでも多く「できた」「わかった」という経験を増やし、豊かな学校生活が送れるよう支援していきたい。

また、8日には学びの多様化学校浦安中学校分教室UMIの「出航の会」を行った。生徒数12名での出航となる。UMIには生徒達が通う前から何度も足を運んでいたが、4月に入ってからにはUMIの施設内に入ると温かい空気を感じた。それは、UMIの教職員が生徒達を迎えるために準備しているなかで生まれた温度であり、生徒達を思う先生方のぬくもりであると思う。「出航の会」の翌日、UMIに行くと生徒達の自己紹介の時間であった。今、夢中になっていることや好きな食べ物など、どの生徒もしっかりと自分のことを話していた。やや緊張気味の生徒もいたが、時々笑い声が起こるなど、終始和やかな雰囲気であった。自己紹介で外国に行った時のことを話した生徒に休み時間話しかけると、外国で経験したことを楽しそうに話してくれた。「また話を聞かせてね。ありがとう。」と伝え、しっかりとうなずいてくれた。生徒達には、それぞれが自分のペースで段々とUMIでの生活に慣れ、安心できる居場所にしてくれたらと願っている。

次に本年度の小中学校の教職員について報告する。新たに校長職となった先生は、小学校4名、中学校1名、浦安市教育委員会から学校現場に戻った先生が1名いる。教頭は、新任が小学校2名、中学校1名、他市から異動してきた教頭が1名で合わせて4名となる。また、新規採用教職員は、小学校28名、中学校17名の合計45名となる。浦安の校長会、教頭会は定期的に学校間で情報を共有するなど、しっかりと連携が取れている。校長も教頭も相互に支え合う風土は浦安の伝統となり、本年度もこうした繋がりを大切にして、支え合い、高め合う仲間であってほしいと願っている。2日の新任式では、私から新規採用教職員に対して「先生方がこれから関わる子ども達は、御両親だけでなく、おじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさんとたくさんの人達の宝物である。自分は宝物を預かっているということを忘れないでほしい。そして、毎日、宝物と関わる教職員という仕事は素晴らしい仕事であり、誇りと責任を持って取り組んでほしい。また、新規採用教職員の先生方も御家族の宝物であり、教育委員会としてしっかりと支援していく」と話をした。私の話をしっかりと聞く先生方の姿に浦安の教育のためにこれから力を尽

くそうという気構えを感じた。今後の活躍に期待している。

さて、社会教育ではいよいよ春の市民スポーツ大会がスタートした。小さな子どもからシニア世代の皆様まで、たくさんの方がスポーツに親しむ様子はいつ見てもすがすがしく、こちらまで元気をいただける。これから各スポーツ施設で熱戦が繰り広げられる。スポーツに親しむ機会とともに、様々な人との交流の場としても盛り上がることを願っている。

26日、27日には恒例の市民まつりが開催される。教育委員会からは本年度も浦安藝大アートプロジェクトのブースを設置する。本年度のテーマは『つながりの器－浦安の土でやきものはできるのか！？』である。親子での参加を基本に、浦安の土を使って器作りに挑戦する。親と子が手を合わせて器をかたどり、一つの作品を仕上げる。子どもの年齢が高くなればなるほど、親子で手をつないだり、ふれあったりする機会が少なくなる。講師は東京藝術大学の職員である。ぜひ、この機会に親子で芸術にふれ、思い出に残る作品を仕上げてほしいと思う。

教育委員会では本年度も一人一人の個性や状況に応じた不登校支援の充実や、メディアセンターの整備、ICT教育の充実、小規模校の児童生徒の豊かな人間関係作りを重点とした学校間連携教育、そして市民が主体となって作り上げる浦安藝大アートプロジェクトの展開、市民スポーツの振興など社会教育の充実に努めていく。

また、本年度は教育の情報についてもより積極的に発信したいと考える。4月より市のホームページがリニューアルされたのを機に、市民の皆様は浦安の教育について、多様な情報発信を行い、学校・家庭・地域・行政が一体となった教育の充実・発展に繋がりたいと考える。

以上で私からの一般報告とする。

次に、議事の第3．審議事項に移る。

議案第1号 令和7年度学校地域連携運営協議会委員の委嘱についてを議題とする。

事務局より説明を求める。

規定により、令和7年度の同委員の委嘱について上程するものである。

本市では地域と共にある学校づくりを推進するため、昨年4月より全ての市立小中学校に学校地域連携運営協議会を設置した。このことに伴い、各小中学校校長の推薦に基づき、別紙一覧表のとおり、令和7年度の委員を委嘱するものである。

任期については、令和7年4月10日から令和8年3月31日までとなる。なお、委嘱候補者は小学校が160名、中学校が78名となるが、そのうち2名については、令和7年度のPTA会長等を予定している。PTA会長等が決定して推薦者の報告があり次第選任し、5月以降の定例会で報告させていただく。

船橋教育長 ただいま説明がなされた議案第1号について、質疑を行う。

影山委員 委員区分にその他教育委員会が適当と認める者とあるが、どのような方であるのか。

鳥海学務課長 様々な仕事をされており、地域で様々な関わりを持つ方が対象となる。基本的には各小中学校校長の推薦によるものである。

影山委員 その他教育委員会が適当と認める者との書き方であると、我々が責任を持って任命したように受け取られることもあり、各小中学校校長の推薦者といった書き方のほうが良いのではないか。

船橋教育長 市の職員である幼稚園・認定こども園の園長、公民館長がその他教育委員会が適当と認める者と表記されている。市の職員であっても幼稚園・認定こども園の園長、公民館長は学校連携の観点から委員として推薦されている。表記が誤解を招く表記であり、検討したいと思う。

ほかにいかがか。よろしいか。

それでは、これより議案第1号の採決を行う。議案第1号について、事務局の説明のとおり、これを承認することとしてよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

船橋教育長 異議がないので、議案第1号 令和7年度学校地域連携運営協議会委員の委嘱については承認された。

次に、議案第2号 浦安市スポーツ推進委員の委嘱についてを議題とする。

事務局より説明を求める。

近藤生涯学習部長 本案は、浦安市スポーツ推進委員の定数の欠員を補充するため、スポーツ基本法第32条第1項に基づき、新たに6名を委嘱するものである。委嘱候補者については資料を御覧いただきたい。また、任期については令和7年4月11日から令和8年7月9日までとなる。

船橋教育長 ただいま説明がなされた議案第2号について、質疑を行う。

影山委員 2点ある。

1点目が、新規採用されたスポーツ推進委員に特技・資格等の記載がない。参考資料のスポーツ推進委員名簿には特技・資格等の記載があるため、審議する際には必要であると思う。

もう1点が、パラリンピックの競技にある、障がい者スポーツの方にスポーツ推進委員となってもらい、障がい者スポーツの振興ができないものか。

小泉市民スポーツ課長 1点目について、新任のスポーツ推進委員6名の特技・資格等について説明する。今回の6名は、トリムバレー・バレーボール・テニス・バドミントンなどの特技を持ち、これらを活かして地域のスポーツ振興に寄与したいという、意欲的な方々ばかりである。具体的には、森氏、牧野氏、山本氏、森谷氏がトリムバレー、3の水野氏がバレーボールやテニス、5の岩瀬氏がバレーボールやバドミントンを特技としている。

続いて、2点目の障がい者スポーツについてである。障がい者スポーツ・インクルーシブスポーツの取組や推進は、非常に重要な視点であると認識している。今回は障がい者スポーツの方への委嘱にまで至らなかったが、引き続き、障がい者スポーツに関するイベントや取組を通じて、スポーツ推進委員の制度を周知したい。

船橋教育長 今後、新規採用されたスポーツ推進委員には特技・資格等の記載をお願いする。

ほかにいかがか。よろしいか。

それでは、これより議案第2号の採決を行う。議案第2号について、事務局の説明のとおり、これを承認することとしてよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

船橋教育長 異議がないので、議案第2号 浦安市スポーツ推進委員の委嘱については承認された。

次に、議事の第4. 協議事項に移るが、本日の上程はない。

次に、議事の第5. 報告事項に移る。

報告事項については、お配りした資料をもって報告とさせていただく。

それでは、議事の第5. 報告事項に対する質問を受け付ける。

宮道委員 まず一つ、学校訪問実施要項について、去年から学校安全を厚く取り上げていただきありがとうございます。また、幼稚園・認定こども園計画訪問実施要項について、現在は教育委員の訪問はなくなったとの認識でよろしいか。幼児期の教育は効果が大きく、重要であると思う。もし機会があれば、現場の先生方の意欲を高める意味でも、我々が現場を知る意味でも、幼稚園・認定こども園への訪問を再開していただくことはできるか。

あともう一つ、教育相談事業実施報告のスクールライフカウンセラーによる教育相談について、令和5年度と比較して、令和6年度は小学校

における教師児童関係の相談が児童・保護者ともに増えているが、実状はどのようなものであるか。

宮崎指導課長 まず、幼稚園・認定こども園の訪問について、資料に明記されておらず分かりづらく申し訳ないが、教育委員の皆様にもぜひ訪問いただきたいと思う。追ってご案内させていただく。

船橋教育長 本市は、小中学校連携一貫教育を推進しており、教育委員の皆様には就学前の子ども達の保育の様子も御覧いただきたいと思う。よろしくお願いする。

次に、教育相談事業についてはいかがか。

小黒指導課主幹 スクールライフカウンセラーによる教育相談について、宮道委員の御指摘のとおり、小学校における教師児童関係の相談が令和5年度より増えていることは事実である。具体的な内容については、学級の決まり、担任との相性、あるいは、周囲の生徒が注意されたり指導を受けているのを見て怖いと感じたりなど、そういった身の回りの心配事の相談である。相談者が相談することで、話せてスッキリしたという場合がほとんどである。相談室やスクールライフカウンセラーの存在が、児童生徒に身近になり、担任以外の大人に話す機会が増えたのではないかと捉えている。

船橋教育長 ほかにいかがか。よろしいか。

それでは、議事の第6．教育委員からの一般報告に移る。

各委員の皆様から、近況報告などについて、一人ずつお願いしたい。

吉野委員 今週、市立幼稚園・認定こども園・小中学校の入園式・入学式があった。病気の流行もなく、皆様元気で、桜も満開のときに入園式・入学式ができ、本当に喜ばしいことである。この状況が続いて、児童生徒が楽しく学校に通えたらと願っている。

船橋教育長　子ども達はとてもやる気に満ちており、その気持ちを大事にしながら、引き続き子ども達を見守りたいと思う。

影山委員　年度始めでもあり、自身のスタンスを説明させていただく。教育委員に就任したときも同じであるが、感じたことは率直に口に出そうという気持ちでいる。行政を知らない、子を持つ親の一人としてどう感じるか、それを皆様に伝えることが重要ではないかと思う。先生の数を増やしてほしい、先生の質を上げてほしい、そのために待遇を改善してほしいと無理なことを言うかもしれないが、そうした考えは地域の皆様が考えていることでもある。行政を知ったつもりで、無理だと決めつけることがないようにしたい。そうした意味でも、感じたことは率直に口に出させていただく。その時に感じるものがあれば、十に一つで構わないので、教育委員会の中で形にさせていただきたい。子を持つ親がこんなことを考えていると知っていただき、それを活かす形としてさせていただきたい。

船橋教育長　教育委員会として、様々な立場の方の声を聞きながら進めていくことが非常に重要だと思う。ぜひ、今の立ち位置を大切にされて、様々な御意見をいただければと思う。

佐藤委員　子が二人いて、これまで市外の学校に通っていたが、今回、中学校に入学する時期に市内の学校に通うことになった。子も不安を抱え、親としても不安があったが、入学式を終えて、先生方と話をすることができ、素晴らしい学校であると感じた。子はすぐに友達ができ、学校が楽しいと話している。また、友達と公園で約束をしたと話している。市外の学校では地域に友達がおらず、公園で遊ぶことがなかったため、親として嬉しく、改めて市内の学校に通うことで地域の人達との繋がりができることの良さを感じた。

船 橋 教 育 長 小中学校に通う生徒の、学校が楽しいとの声が私達にはありがたい。子ども達にとって不安な時期であると同時に、送り出す御家族にとっても様々な心配事があると思うが、子ども達が笑顔で学校から帰ってくるのが何よりの安心になると思う。子ども達が笑顔でいられるように、学校・教育委員会は取り組まなければいけない。子ども達の声は先生方のモチベーションにも繋がると思う。

宮 道 委 員 一つ目は、学校安全の話である。教育長の話のなかに、子どもは宝物で先生方は宝物を預かっているとの話があった。本当にそのとおりである。学校安全の取組を中心的にされる大阪教育大学の先生が3月から中央教育審議会の委員になった。大きな震災が続き、南海トラフ地震も起ころのではないかとされているなか、文部科学省でも災害から子ども達をどう守るかを意識した取組があると推察している。千葉県八街市では痛ましい交通事故があったことから、学校で児童が中心になって安全対策に力を入れている。浦安市は東日本大震災の際に、液状化が問題となったことから、日頃から意識的な取組が求められる。学校安全に関する取組が学校現場から自主的に出てくることを期待していたところ、明海地域では、入学式の際に、保護者宛てにSNSの使用に関するパンフレットが配布され、安全教育を地域の方と取り組む姿勢があると伺い、嬉しく思う。

二つ目は、アートプロジェクトについて、文化資本を楽しむことをとおして、地域コミュニティをどのように再生していくか。学校や公民館を活用して展開することで、学校に行けなくても公民館に行ける子ども達の居場所づくりに寄与する。また、おじいちゃん・おばあちゃんと子ども達の世代間交流が促進されることを期待する。認知症の問題が今後あるなか、子ども達との接点は高齢者にとって刺激的である。社会教育の場を活発にしていくことで、市内の高齢者の社会参加が促され、生きがいを感じられるようになるのではないかな。病院に集うのではなく、社会参加をとおして、健康や幸福感を感じられるような取組に発展していくことを期待する。

船橋教育長 学校安全について、私達の最大の使命は子ども達の命を守ることである。子ども達の命を守るとは、物理的に安全を守ることでもあり、子ども達自身が自分以外の命について考え守ることでもある。昨年度末に退職した先生方へ感謝状贈呈式があったところだが、退職した先生方は東日本大震災や新型コロナウイルスを乗り越えた方で、その際に子ども達を守ったのは、責任感や仕事だからではなく、教職員としての自然な行動であったと思う。教職員として、ごく自然に子ども達を守る姿勢が身についていることを、先生方の行動から感じており、大切にしていくなすべきである。

また、アートプロジェクトについて、本年度さらに充実・発展させるため、子ども達が積極的に参加できるようなプログラムを展開したいと思う。宮道委員の御報告のとおり、世代を超えた交流が地域コミュニティの充実や活発化に繋がると思う。未来の地域の担い手は子ども達であり、アートプロジェクトの趣旨に沿ったものである。様々なアイデアをいただき、アートプロジェクトの充実・発展に努めてまいらる。

次に、議事の第7. その他に移るが、本日の上程はない。

以上で、令和7年度浦安市教育委員会4月定例会を閉会する。

閉 会 (午後3時37分)